

提言第11号 肝生検に係る死亡事例の分析

事例1

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者、PS^{※1}4。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。
- ・ 主診療科：呼吸器内科、肝生検施行診療科：消化器内科。
- ・ 抗血小板薬、抗凝固薬を内服中。肝生検当日朝、抗血小板薬のみ休薬した。
- ・ 血小板9.5 万/ μ L、プロトロンビン（PT）時間23.2 秒、PT 活性38%、フィブリノゲン（Fib）362 mg/dL。
- ・ 悪性リンパ腫疑いのため、腹部超音波ガイド下で右副腎腫瘍生検、肝生検が実施された。
- ・ 肝生検終了から2 時間後、意識レベルが低下した。腹部超音波で明らかな腹腔内出血はなかったが心肺停止となり、3 時間後に死亡した。
- ・ 生検組織診断の結果は、血管内大細胞型B 細胞リンパ腫であった。

※1 PS（performance status）： ECOG（Eastern Cooperative Oncology Group）が定めた全身状態の指標で、患者の日常生活の制限の程度を示す